岩瀬文庫コレクション

子規居士十五周忌記念画帖（50―34）1帖

明治35年に没した俳人・正岡子規の15周忌に友人や弟子たちが作成した画帖です。河東碧梧桐、中村不折、内藤鳴雪、吉野左衛門、高浜虚子、下村為山の直筆の俳句と絵、子規による絵の複製などが貼り寄せられています。序文や奥付はなく、制作の経緯や発行部数は不明ですが、直筆作品は一部ずつ異なる内容のようです。また、作品に表された季節や情景がバラバラであることから、それぞれで用意した作品を後で組み合わせたものと思われます。闊達な筆で書かれた句や絵からは、当時の俳画壇で活躍した筆者たちの個性豊かな才能を見ることができます。

写真は、碧梧桐の俳句「子規庵のゆすらの実お前達も貰うてきた」（右）と不折の達磨図（左）。碧梧桐は子規と同じ愛媛県松山出身で、虚子とともに門下の双璧と称されましたが、子規亡き後は伝統的な五七五調にとらわれない「新傾向俳句」を提唱しました。紙からはみ出さんばかりの大胆な筆遣いで書かれた句は、感情を率直に自由に表そうという意欲に満ちています。

▶この資料は、開催中の企画展「自筆本は語る」で展示しています。ぜひご覧ください。また、動画サイト（岩瀬文庫HPからリンク）で他のページもご覧になれます。

シリーズ61

西尾の古を探る

宗教的な聖地・岡山

東部丘陵のわずか西に位置する分離丘陵の岡山には2つの寺院があり、仏海禅師（一峰明一）が入った真言宗金星寺（山）の僧坊またはその跡地に創建されたと伝えられます。おそらく岡山の地が宗教的な聖地であり、実相寺四世仏海禅師が移り住んだことに始まる起源と思われます。

応永6（1399）年には恵寿が金星山中に入り、山中に華厳道場を開きました。そして、慧存らと大蔵経を書写し、法輪蔵を建てて納めました。この時、外護者として西条吉良義尚、田地を寄進したその家臣大河内省貞・巨海美濃守などの名が「三川金星華蔵禅寺転不退法輪蔵記」に記されています。また、岡山の地は東条城北の防御ラインであり、東条吉良氏と西条吉良氏との戦がたびたびありました。応永19（1412）年には八幡山において西条勢6人が、文明元（1469）年には山王山で大河内光綱が討死しています。

この地には中世に始まる能満寺や後期東条吉良尊義の開基と伝えられる霊源寺、中世古瓦が散布する献上田廃寺遺跡があり、周辺には山王山南遺跡、善光寺沢遺跡、背撫山遺跡の中世墓が分布し、護摩堂や極楽寺の名が伝えられています。善光寺沢遺跡の一部は発掘調査され、蔵骨器を出土する37遺構を含め78基の墓坑が確認され、12世紀末に築造が始まって15世紀代の終わりごろまで続き、16世紀代に入ると急速に衰退したことがわかりました。その後、花岳寺は吉良持広によって大永5（1525）年に諸堂が再建され、華蔵寺は近世吉良氏菩提寺として吉良義定によって現在の地に再興されました。